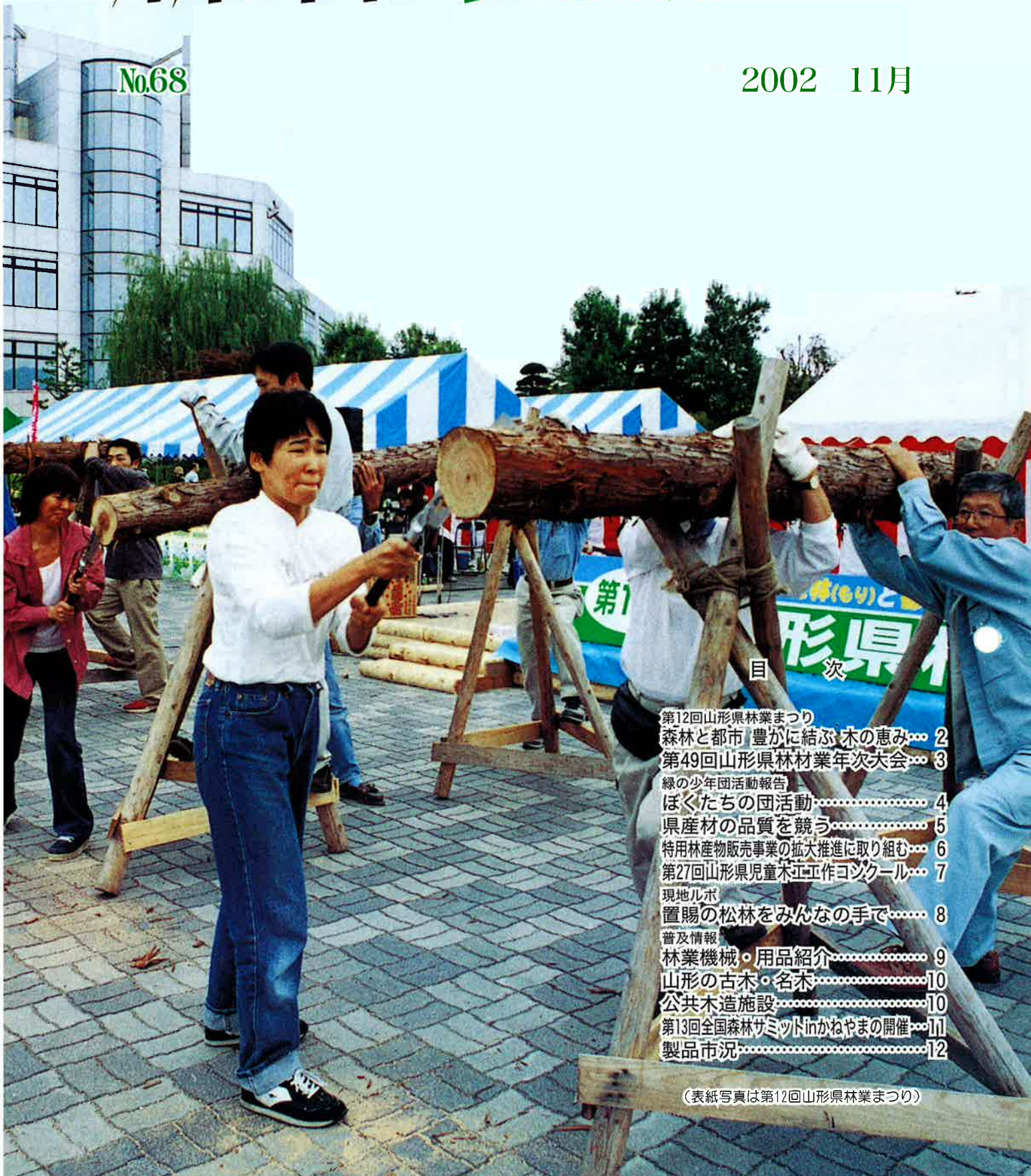


森林やまがた

No.68

2002 11月



目次

第12回山形県林業まつり	
森林と都市 豊かに結ぶ 木の恵み	2
第49回山形県林材業年次大会	3
緑の少年団活動報告	
ぼくたちの団活動	4
県産材の品質を競う	5
特用林産物販売事業の拡大推進に取り組む	6
第27回山形県児童木工工作コンクール	7
現地ルポ	
置賜の松林をみんなの手で	8
普及情報	
林業機械・用品紹介	9
山形の古木・名木	10
公共木造施設	10
第13回全国森林サミットinかねやまの開催	11
製品市況	12

(表紙写真は第12回山形県林業まつり)



森林と都市 豊かに結ぶ 木の恵み

第十二回山形県林業まつり賑う

ことや山の恵みについて知る機会がほしいとの昨年のアンケート結果を受けて、会場内の庭園を散策し、園内で見つけた木や木の実・落ち葉やきのこなどを直に触れ、さわって体験をしながら問題に答えてもらいました。定員を上回る多くの子供達が参加し、指導者の話を熱心に聞きながら取り組んでいました。

ことや山の恵みについて知る機会がほしいとの昨年のアンケート結果を受けて、会場内の庭園を散策し、園内で見つけた木や木の実・落ち葉やきのこなどを直に触れ、さわって体験をしながら問題に答えてもらいました。定員を上回る多くの子供達が参加し、指導者の話を熱心に聞きながら取り組んでいました。

よる競技を初めて実施しました。参加した子供達は、一生懸命丸太と格闘しながら五分程度で切り終えていましたが、もうちょっとで息切れしている子どももいました。汗をながして必死に向かう子供達の姿に多くの声援や拍手がありました。

「森林と都市 豊かに結ぶ」をテーマに、第十二回山形県林業まつりが十月五日・六日の二日間、山形国際交流プラザ（ビッグウイング）を

会場に開催されました。

今年のまつりは、将来を担う子供を対象にしたネイチャーゲーム「木の博士になろう」を行いました。子供達にもっと木の

丸太切りの子供の部を実施恒例の丸太切りでは、子供に

会場内では、例年以上に木製品の展示販売やきのこなどの林産物販売が多く、各地域の林業振興協議会コーナーでも輪投げや木工クラフト・ワッペン作り※





※などの楽しいイベントが多数あり、木とのふれあいを実感してもらおうよい機会になりました。

また、間伐材の利用を進めるため「間伐材製品展示コーナー」を設置し、間伐材製品の普及啓発にも努めました。

テーマ館では、六月二日に金山町「遊学の森」で開催された「第五十三回全国植樹祭」の写真パネルコーナーを設け全国植樹祭の模様を伝える展示を行いました。

また、資源を循環的に利用する「木質バイオマス」コーナーでは、木の皮などを固形にした

ペレットを燃料として使う「ペレットストーブ」を展示実演したところ、多くの方が説明を興味深く聞いていました。

両日とも、天候に恵まれて、

まつりを楽しみに来た家族連れなどで賑わい、二日間で三万九千人の入場数を数え、大盛況のうちを終了しました。

〔県森林課〕

第四十九回

山形県林材業年次大会の開催

今年の山形県林材業年次大会は、十月五日、山形ビッグウイングで、金森副知事、松本林野庁次長、鹿野、遠藤、今田、阿部、岸の各国会議員、田澤県議会農林水産常任委員長、荒井県議会議員、川喜多東北森林管理、

局長、細野農林水産部長ほか多くのご来賓出席のもと盛大に開催されました。

大会のスローガン・決議事項は次のとおりです。

一、スローガン

①地球温暖化防止のための森林整備を拡充強化しよう ②資源循環型社会を担う林業・木材産業の活性化を促進しよう ③豊かな暮らしを広げる県民参加の森づくりを進めよう

二、決議事項

①多様で健全な森林の整備・保全の推進 ②林業・木材産業の構造改革の推進 ③木材利用の促進 ④都市と山村の共生による活性化 ⑤森林づくりのための県条例の制定 ⑥山形県単独事業の創設及び拡充
決議事項については、国及び県等に要望して参ります。

〔山形県森林協会〕



緑の少年団



活動報告

東根市立高崎小学校
緑の少年団

岡田健資

ぼくたち高崎小学校の緑の少年団は、四年生から六年生まで五十一人で活動しています。

日ごろの活動

は、グリーン活動といって、花壇やプランターの草花の世話などが中心です。学校の周りが花と緑で囲まれ気持ちよく学校生活を送れるようにここをがけています。

ぼくたちの団活動

また今年も、団員の代表が全国植樹祭に参加して、県内の仲間と植樹を行いました。緑の少年団の交流会では、他の学校の人とも友達になることができました。

さらに普通では体験できない活動が高崎小学校の緑の少年団にはあります。関山愛林公益会や森林組合の方の協力をいただき※

の炭焼きのお話をお聞きし、植林や間伐の様子を見、そして杉の枝打ちを体験しました。今年、三・四年生が「なか直し山」、

休み時間に出かけてかけまわったり、木の実をとったりできます。特に今年、四年生が総合的な学習の中で、キッズハウスという自分たちの秘密基地を森の中に作っています。

森や林だけでなく、身近な自然に目を向けることも大切にしていきます。写真は、六年生の草木のスケッチです。校舎内の窓辺に飾っています。よく見て、いていいに仕上げました。



▲草木のスケッチ



杉の枝打ち体験▶

▼秘密基地キッズハウス



※いた「杉の枝打ち体験」がそう、への遠足の途中で体験するそうです。昨年、五・六年生が、遠足として、林道を歩きながら、昔「ふれあいの森」での活動もそうです。

緑の少年団の活動を通して、身近な森や林から考えていきたいと思えます。

林野庁長官賞



県産材の品質を競う

第14回山形県産材展示会を開催

表彰式▶



去る九月六日、七日、九日にわたり、(株)山形城南木材市場を会場に第十四回山形県産材展示会が行われました。

第14回山形県産材展示会受賞者一覧表

賞	製材業社名	市町村名
林野庁長官賞	最上広域森林組合	真室川町
山形県知事賞	有限会社庄司製材所	真室川町
東北森林管理局長賞	温海町森林組合	温海町
山形県森林協会会長賞	宇佐美製材所	南陽市
山形県森林組合連合会会長賞	丸北木材工業株式会社	河北町
山形県木材産業協同組合理事長賞	サンウッド有限会社	遊佐町
山形県産材連絡協議会会長賞	山崎林産工業株式会社	西川町

名による審査員がJAS規格による寸法、ひきむらなど製材技

県内各地の製材工場十七社から品質の吟味された製材品百二m²が出展されました。県産材展示会は、県内製材業者の製材技術及び品質の向上と、山形県産製品の普及啓発を目的に開催されています。六日に審査会が行われ、登録格付機関山形支所の田代良英検査員のほか十八

術、製品の表示および結束などの項目について厳正かつ公平な審査の結果、上表のとおり林野庁長官賞など七点を選考し、七日に展示会、九日に表彰式が行われました。最優秀の林野庁長官賞は、昨年に引き続き二年連続で最上広域森林組合が受賞しました。表彰式終了後、出展された製材品の即売会も行われ、買い手である工務店などから多数の引き合いがありました。(県森林課)



審査状況

特用林産物販売事業の拡大推進に取り組む

小国町森林組合

昭和四十七年合併当初から、地域の特性を活かした特用林産物販売事業に取り組んできました。

昭和五十八年度特用林産物展示販売施設（こごみ直売所）を開設、平成三年度同加工施設を

設置、平成十年年度販売物のシンボルマーク及びパッケージ等を組合で統一、翌十一年度には水質浄化装置整備を図りました。

折からの本物志向や健康自然食志向が高まるなかにあつて、年々実績を伸ばし、総事業収益（約五億円）の十八%強のシェアを占めるまでに至っています。

当施設は、新潟市と仙台市を結ぶ最短路国道一一三号線沿い、小国町（白い森よこね道の駅）と飯豊町（めざみの里道の駅）の中間点に位置しています。片洞門、めがね橋といった名所があ

完成予想図



り、春の新緑、海のシーズン、秋の紅葉と行楽客も多く、立地条件に恵まれた場所です。

しかし施設は手狭になつていきます。販売施設設置当時は山菜きのこの販売が中心でしたが、現在では加工品、つる細工等、商品が多種多様にわたり販売量も増大しています。山菜については、これまでの自然採取量に加えて、小国町の奨励転作作物としてさらに生産量も増加が見込まれます。本事業は組合員参加型での多角化

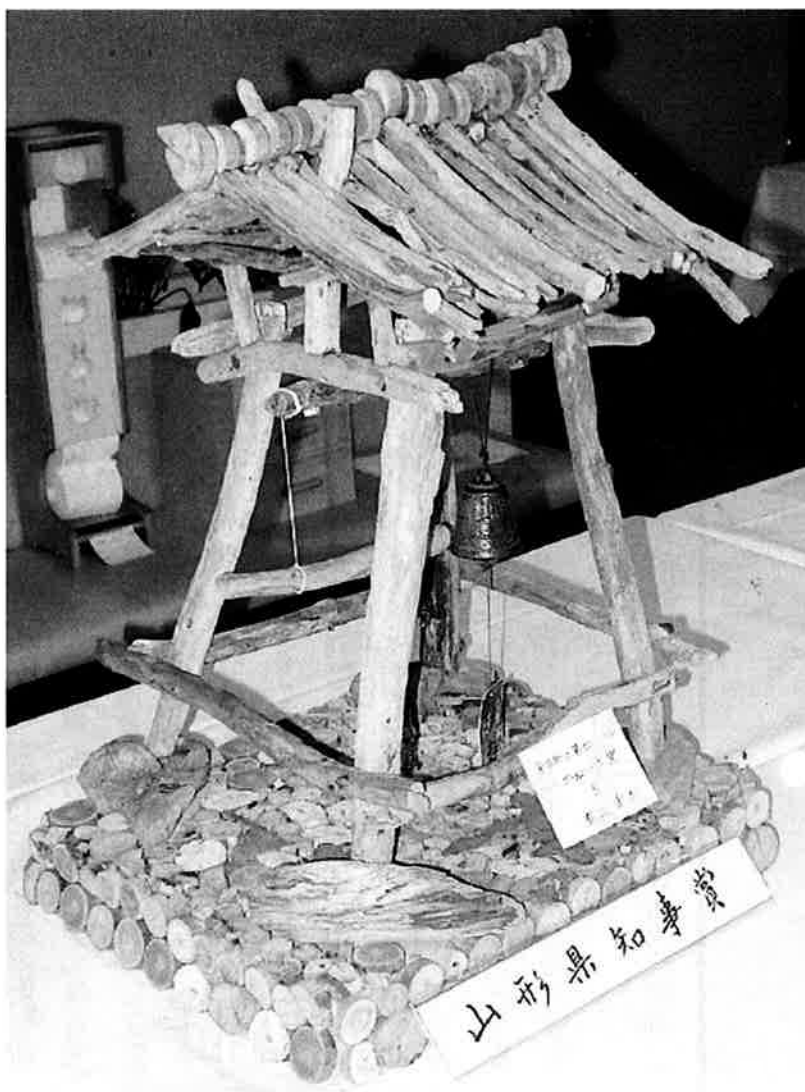
であり、組合員との相互関係をより緊密にし、事業の円滑な運営に欠くことのできない極めて大切な分野であります。組合員からの施設の整備拡充要請が高



まっていることもあつて、かねて関係当局の指導を得ながら施設整備計画を進めて参つたところです。

お陰をもつて、この度林業・木材産業構造改革事業の適用を受け、来春四月オープンに向け整備着工の運びとなりました。今後、新たな施設を中心により活発な活動を通して事業の拡大推進を図ると同時に、地域の活性化に寄与して参ります。

第27回 山形県児童木工工作 コンクール



山形県知事賞作品「かねつき堂」▶

子どもたちが木に感心を持ち、物を作り上げる達成感を味わってもらおうと、山形県児童木工工作コンクールが県木材青壮年協議会（岩浪智春会長）の主催により開催されました。

さる九月十四日に同コンクールの審査会が鶴岡市中央公民館で行われ、山形県知事賞を含む最優秀賞五点、優秀賞八点が決まりました。

山形県知事賞には、自然木をうまく組み合わせた、余目町立第四小五年、奥山勇太君の作品「かねつき堂」が選ばれました。

以下、東北森林管理局長賞には酒田市立泉小六年、上松侑平君の「森のすべり台」、山形県木材産業協同組合理事長賞には、天童市成生小五年、垂石歩さんの「三輪車」、日本木青連東北地区協議会長賞には、天童市成生小三年、垂石孝星君の「カメ

の親子」、

県木材青

壮年協議

会長賞に

は、余目

第四小六

年、小林

亜季さん

の「ふくろう」がそれぞれ受賞

されました。

今回のコンクールには、県内十三の小学校から代表作品三十五点が出品され、創造性あふれる作品が数多くみられました。

なお、最優秀賞の五点は来年奈良県で行われる全国大会に出品されます。

また、受賞者の表彰は、十月十九日に鶴岡市小真木原公園で行われるウッドフェスティバル開会式典で執り行なわれ、当日は同時に作品も展示されました。

〔県森林課〕



置賜の松林をみんなの手で

説明し「安久津八幡山を守る会」が設立されました。

その後、参加者は三班に分かれ、八幡神社の境内周辺に出て当課の指導員等の指導により雑草木の刈りや前年度にくん蒸処理したビニルシートの回収、マツの活性剤の散布を行いました。当日は夏を思わせる暑さとなりましたが、参加者は熱心に

林内整備等に取り組み、終了後の意見交換会では、年間をとおした幅広い活動などに向け積極的な意見が交わされました。

三 今後の展開

地域の松林を住民の手で守ろうとする波が、内陸部の高島町から起こったことは非常に意義あることだと思います。今後は、先進地等と交流しながら、この小さな波が管内や内陸全体に広がる大きな波になるよう支援していきたいと考えています。

〔置賜総合支庁森林整備課〕

一 管内の松

林の状況

置賜地方は県内でもマツの賦存量が最



も多い地域ですが、東南置賜地区は県全体の四割に当たる約六千五百ヘクタールの松林があり、その多くが里山に分布しています。松林は、特産品である松茸の生産や史跡、森林公園、急傾斜地での表土の保全など地域住民の生活と密接な関係にあります。その多くは燃料草命等により省みられなくなり、被圧木や雪害木の放置、雑草木の繁茂などにより不健全な林分が増加してきています。

一方、管内の松くい虫の被害は、

平成十三年度、被害材積約四千六百立方メートルと前年度に対して十八パーセントの増加となっています。総合支庁

では関係市町と協力して防除

区域を設定し、森林病虫害等防除事業や関連する公共事業などを組み合わせ駆除を行っ

てきましたが、不健全な

松林で被害の発生源を絶つことができないことか

ら、松林の健全化を図ることが重要になってきています。

また、森林所有者に代わって恩恵を受ける地域全体が松林を保

全していく手立てが必要です。

二 新規事業の創設

そこで、置賜総合支庁では、

平成十四年度から総合支庁独自の事業として、地域住民等が松

林の整備を行う「松林景観保全モデル事業」を創設しました。

松くい虫防除に熱心な高島町を

主体に、広報等を通じて広く参加者を募集したところ近隣市町

からも応募があり、総数三十五名の参加が得られました。

九月二十一日（土）、安久津八幡神社周辺を会場に森林整備等の行事が開催さ

れ、置賜総合支庁から松くい虫被害のメカニズムについて説明

し防除に対する参加者の理解を深めた後、高島町がボランティア

ア団体の設立の趣旨等について

現地ルポ

普及情報

安全作業に役立つ！
これは便利そう！
そんな林業機械や用品を
紹介します。

○刈 払 機

SRE260SL/U ¥71,000



始動の楽な「iスタート」を装備。従来の1/3の力で女性でも楽々。さらに、排ガスがきれいである混合の手間が要らない分離給油方式を採用。刈払機による一連続使用時間は、振動による健康への影響を考慮し30分以内に。

○チェーンソープロテクション作業服

安全ズボン(日本サイズ)

¥13,600



長い繊維質で構成されるプロテクションを装着。ソーチェーンが誤って接触しても繊維が絡み付いて停止。安全意識の高いヨーロッパでは多くの人が着用。



○ソーチェーンオイル

YSバイオチェーンオイル

14ℓ ¥2,600

18ℓ ¥7,000

生分解性に優れ、微生物の働きで自然に戻る森林に優しいソーチェーン用オイル。オールシーズンタイプ。



○自動枝打機

えだうちやまびこ

AB351R ¥610,000



節のない優良なスギ材をつくるには枝打ちが必要。高いところが苦手な人にぴったりの製品。幹の太さ15~35cmに対応。枯枝をそのままにしておくとスギアカネトラカミキリという虫が入り、材を変色させてしまうので、枯枝は必ず落としておきたい。小型機¥496,000もあり。

〔県森林課 林業専門技術員〕



(案内略図)



ハルニレはわが国北部に多く分布する落葉高木で、エノキやケヤキと同じくニレ科に属する。青山神社境内の北東端にあるハルニレは、樹高三十七・五m、目通幹周四・六m、樹齢は約三百年と推定される。ハルニレとしては庄内最高。日本植物保護推進協議会の調査では、巨樹で全国第二位。町指定天然記念物(昭五一・三・三一) [県みどり推進機構]



公共木造施設⑧

酒田市立 はまなし学園

酒田市住吉町

完成年度 平成13年度
延床面積 549.34㎡
構造 木造平屋建



特徴 戸や腰板、机、椅子まで木製。子どもたちの情緒が安定することの一因でもあるようです。
問合せ 酒田市健康福祉部児童課

第十三回全国森林サミット in かねやまの開催

紅葉も映える十月五日（土）

金山町中央公民館を会場に、全国森林サミットが、県の内外から三百五十名の参加者を迎え盛会裏に開催されました。

このサミットは、森林・林業を町創りの基本に据え、町おこしに取り組んでいる全国の八つの加盟市町により構成され、平成二年度の大分県日田市での開催を初回とし、今年度の金山町での開催で十三回目を数えます。

金山町での開催は、平成六年度次いで二回目となります。

今回のサミットでは、「新たな森林づくりへの挑戦」をテーマとして、林野庁松本次長の基調講演につづき、明海大学教授の



加盟市町長によるパネル

森巖夫先生のコーディネートによるパネルディスカッションが行われ、森林文化社会の構築や

地域木材の需要拡大による林業振興について、熱く語り合われ、この結果が大会宣言として発表されました。

サミットに引き続き

開催された歓迎レセプションでは、地元産直グループの郷土料理に舌鼓を打ちながら、県内の林業関係者と加盟市町との交流が図られ、秋の夜長も忘れるほどの熱心な意見交換がなされ、参加者の方々は、来年の岡山県勝山町での再会を誓い、名残を惜しむつつ盛会のうちに閉会しました。

〔金山町産業課〕

21世紀の緑を美しく、
安らぎと輝きの森林と水を求めて



社団法人

山形県林業コンサルタンツ

理事長 菅原 六郎

山形市松栄一丁目5番41号 TEL (023)647-1800

FAX (023)647-1801

環境を守ろう

災害に強い県土を
良質な水の安定供給を
緑豊かな環境づくりを

森林を育てよう

山村の生活環境の整備を
森林の恵みの循環利用を

山形県森林土木建設業協会

山形市桜町2-35(林業会館内)

電話(023)632-3893 FAX(023)632-5454



活かしてみましょ
冬のボーナスは
農林中金へ!

確定利回りの1年貯蓄

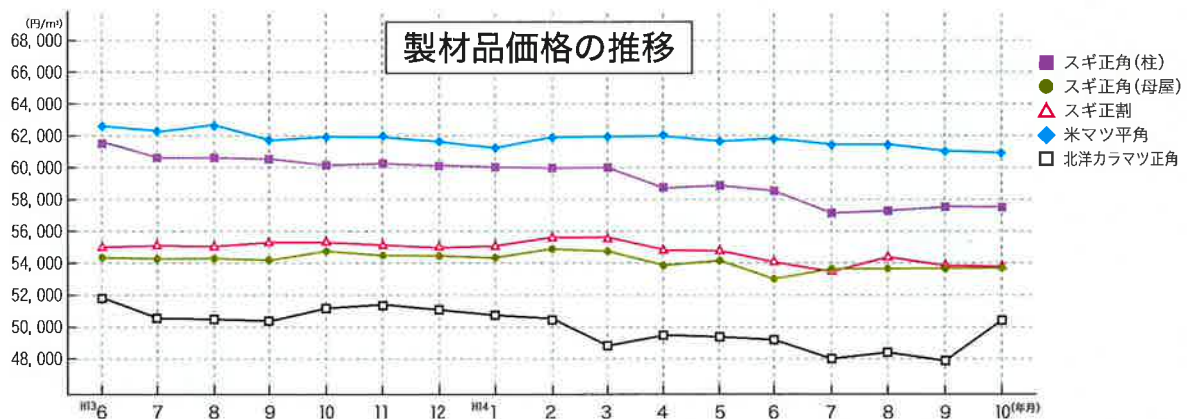
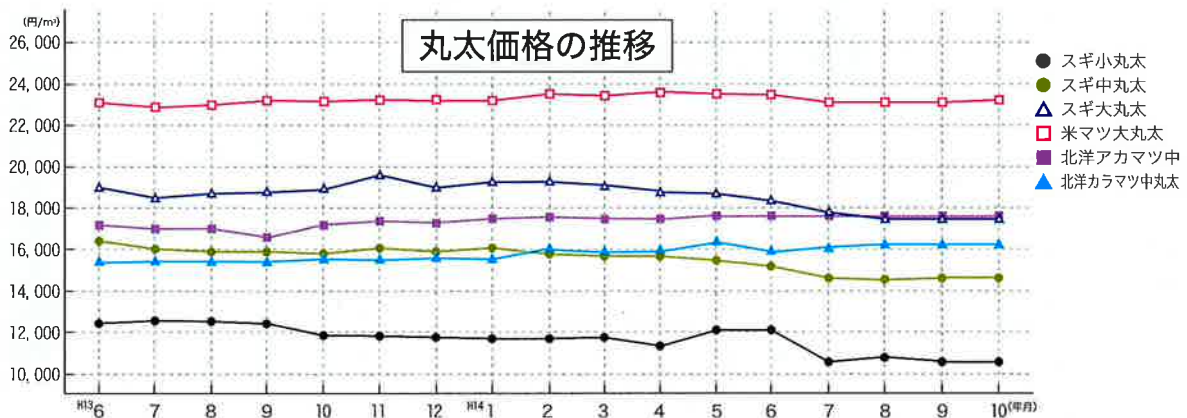
ワリノ



どなたでもお気軽に

農林中央金庫山形事務所
〒990-0042 山形市七日町3-1-11
☎(023)641-6271

投資信託



印刷所 渡辺活版所 定価 一部二〇円

森林やまがた11月号 平成14年11月1日発行 通巻第68号

監 修 山 形 県
編 集 ・ 発 行 山 形 県 森 林 協 会
〒990-0045 山形市桜町2-35 林業会館内
TEL 023-631-6566 023-622-8823
FAX 023-631-6573

「ゆとり都」森林課ホームページ <http://www.pref.yamagata.jp/ns/shinrin/index.html>
第53回全国植樹祭ホームページ <http://www.shokujusai-yamagata.jp>

古紙配合率100%再生紙を使用しています